

半壊古民家 みんなで改修

甲佐町

月1回ワークショップ

来年2月 交流拠点に

熊本地震

熊本地震で被災した甲佐町仁田子の古民家を職人と改修する月1回のワークショップが注目を集めている。建築を学ぶ学生や興味のある人が毎回参加。来年2月、カフェや宿泊所を併設した交流拠点に生まれ変わる。

改修しているのは、築140年の古民家を活用した「旧西村民俗資料館」。地震で半壊した後、所有する町が熊本市のコンサルタント会社・松下生活研究所に改修を委託し



た。改修にかかる総額は約7千万円。

町内外の人や今と昔が交差する意味から「こうさてんプロジェクト」と銘打った改修は昨年11月に始まり、これまでに延べ200人が参加。5月のワークショップは、竹を編んで土壁の下地にする竹木舞や杉板を使った外壁を作った。

参加は4回目という崇城大工学部3年の内田葉里さんは「どんどん建物への愛着が湧く。完成後はいろんな人に紹介したい」、鹿児島県肝付町から訪れた地域おこし協力隊員の吉田有志さん(36)は「職人の話が聞けるのは貴重。土壁の自宅を建てる時に役立てたい」と話した。

次回は15日と16日。断熱材を使った床を張る。先着20人が無料で参加できる。1日のみの参加も可能。甲佐町地域振興課の山村豪さん(28)は「地震で姿を消すかもしれない建物を多くの人と共有したい」と呼び掛けている。松下生活研究所☎096(202)4136。(立石真一)

職人(中央左)のアドバイスをを受け、古民家の外壁作りを体験するワークショップの参加者■甲佐町